

予防接種の注意事項

【インフルエンザについて】

インフルエンザは「インフルエンザウイルス」に感染しておきます。38℃以上の発熱、頭痛や関節・筋肉痛など全身の症状が急に現れ、高齢の方や種々の慢性疾患を持つ方は肺炎を伴うなど重症化することがあります。ワクチンは重症化の予防効果が認められています。例年 12 月から 3 月にかけてインフルエンザは流行します。ワクチンの予防効果が期待できるのは接種後 2 週から 5 ヶ月程度と考えられています。

【新型コロナについて】

SARS-CoV-2による感染症が発症すると、熱や咳など風邪によく似た症状がみられます。軽傷のまま治癒する人も多い一方、重傷化すると、呼吸困難などの肺炎の症状が悪化し、死に至る場合もあります。

接種を受ける際に注意を要する方

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方
- ② 過去にけいれんの既往のある方
- ③ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ④ 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患を有する方
- ⑤ 予防接種の接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある方

接種を受けることができない方

- ① 明らかな発熱を呈している方
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ 予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことがある方(医師に御相談ください)
- ④ 接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
- ⑤ その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある方

接種後の注意

- ① 接種当日は激しい運動を避けてください。(接種当日の入浴は差し支えありません。ただし注射したところをこすらないでください。)
- ② 接種後に発熱したり、接種した部位が腫れたり、赤くなったりすることがありますが、一般にその症状は軽く、通常、数日中に消失します。
- ③ 接種後は自らの健康管理に注意し、もし、高熱や体調の変化、その他局所の異常反応に気付いた場合は、ただちに医師の診療をうけてください。

接種間隔

・新型コロナワクチンと他のワクチン(インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチン等)との同時接種は医師が必要と認めたときに可能です。また、他のワクチンとの接種間隔に制限はありません。

ワクチン接種による副反応

【インフルエンザ】

インフルエンザワクチンは、ウイルスの活性を失わせて、免疫をつくるのに必要な成分を取り出し、病原性をなくした「不活化ワクチン」です。接種によってインフルエンザを発症することはありません。比較的多く見られる副反応は、接種部分の発赤や腫れ、痛みなどで、通常は2～3日でなくなります。一方で、まれに重い副反応の報告がありますので、気になる症状がある場合は医師に相談してください。

【新型コロナ】

接種後に接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱等、様々な症状が確認されていますが、ほとんどが軽傷又は中等度であり回復していることなど、現時点で得られている情報からは、安全性に重大な懸念は認められていないと判断されています。しかし、重篤な副反応としてアナフィラキシーが報告されており、接種後30分はその場で健康観察をすることならびに接種後数日の間に胸痛、息切れ、ぐったりするなどの症状があった場合は医療機関の受診が必要になります。

予防接種健康被害救済制度

一般的に、ワクチン接種では副反応による健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めて稀ではあるものの、なくすことができないことから、救済制度が設けられています。救済制度では、予防接種によって健康被害が生じ、医療機関での治療が必要になったり、障害が残った場合に、予防接種法に基づく救済(医療費・障害年金等の給付)が受けられます。詳しくはこちらをご覧ください。



厚生労働省 HP

予防接種健康被害救済制度

【お問い合わせ先】

むつ市健康福祉部 感染症予防課

電話 22-1111(内線 2581)

(裏面もご覧ください)

新型コロナウイルスについて

- ・定期接種に用いるワクチンは各医療機関ごとに異なります。
ワクチン(製剤)の詳しいことにつきましては、各医療機関にご確認をお願いいたします。
- ・ワクチンの主な5社については、こちらを参考にしてください。
携帯電話で QR コードを読み取ることで、各ホームページにリンクします。



ファイザー
社



モデルナ社
HP



第一三共
HP



武田薬品
HP



Meiji Seika
ファルマ
HP